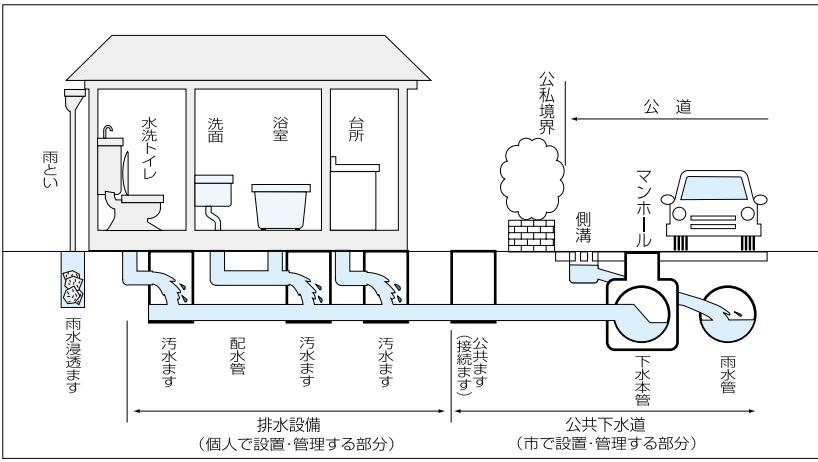


水洗化工事の一例 (一般家庭の場合)



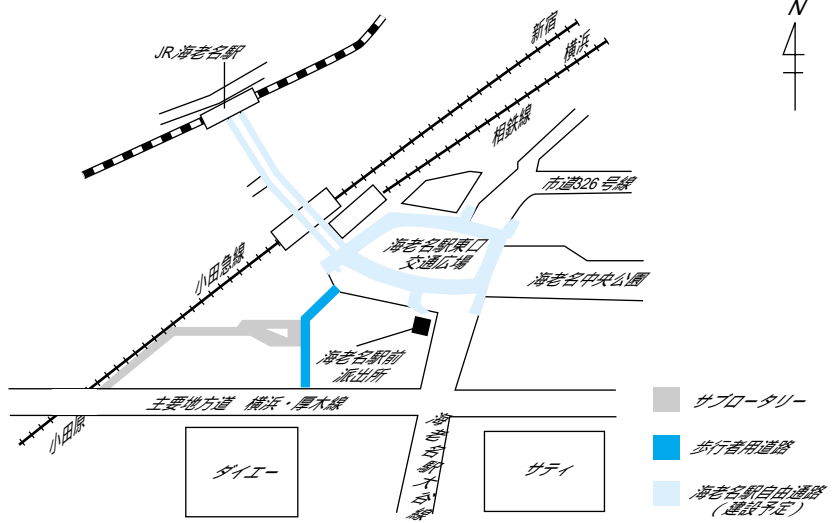
### 海老名駅東口・サブローターと歩行者道路

# 10日から 利用開始

海老名駅東口交通広場(ロータリー)南西側の一般車用サブローターと歩行者用道路(下の地図参照)が、5月10日(木)から利用できるようになります。利用に当たっては、次の点に注意してください。

- 普通自動車(道路交通法による)以下の利用に限りです
- 総重量5・5ト以上の車両は利用できません
- 駐車はできません
- 放置自転車禁止区域です
- 許可なく物品の販売などを行うことは禁止されています

図 駅周辺整備室(内69)



## 大谷・社家など13地区の一部が完成

## 公共下水道の処理区域拡大

●5月15日から利用へ

市民のみなさんが清潔で快適な生活を営むために必要な公共下水道の処理区域が拡大されます。今回は大谷、社家地内など13地区について一部が完成し、5月15日(火)から利用できるようになります。

- 国分南三丁目の一部
- 国分南四丁目の一部
- 大谷の一部
- 上郷四丁目の一部
- 下今泉一丁目の一部
- 上今泉五丁目の一部
- 上今泉六丁目の一部
- 柏ヶ谷の一部
- 社家の一部
- 今里の一部
- 杉久保の一部
- 本郷の一部

## 災害と罹災

### ご存じですか 2見舞金制度

### ●災害見舞金制度

市では、市の住民基本台帳または外国人登録原票に登録されている方が国内で事故にあった場合、災害見舞金を支給しています。支給申請は、事故発生の日から1年以内に行ってください。ただし、被害者に故意または重大な過失がある場合は、支給されないことがあります。

【別表①】災害見舞金支給額

区別	支給額	
弔慰見舞金	火災および風水害による死亡 主として生計を維持していた方	1,500,000円
	その他の方	750,000円
	交通事故による死亡	6歳未満 90,000円 6歳以上20歳未満 180,000円 20歳以上 270,000円
傷害見舞金	入院5日まで	5,000円
	入院治療を要する傷害を受けたとき	1日に付き1,500円(上限75,000円)

【別表②】罹災見舞金支給額

災害の区分	見舞金の額	
	単身世帯	2人以上世帯
全焼・全壊・流失	30,000円	50,000円
半焼・半壊	20,000円	30,000円
床上浸水	10,000円	20,000円

### ●罹災見舞金制度

また市では、市の住民基本台帳または外国人登録原票に登録されている方が、市内で発生した災害にあった場合に、罹災見舞金を支給しています。支給額は別表②のとおりです。

### ●老人保健・高額医療費について

老人保健法の改正により、今年1月の診療分から、同じ世帯で2人以上の老人医療受給者が入院した場合、支払った負担額の合計が一定の額を超えると、その超えた額が、後日支給されることになりました。

具体的には、同一世帯内で2人以上の老人医療受給者が入院して、同じ月に1人あたりの支払いが3万円以上となった場合、月14日に接続の手続きをしてください。環境衛生の向上、河川などの水質保全のため、早めの接続をお願いします。

### 接続工事はお早めに

### 工事費の貸付、助成金制度あります

公共下水道を利用できる区域になると、一般家庭では「くみ取り式トイレ」は公共下水道に接続された「水洗トイレ」に、また「浄化槽」の場合は廃止して公共下水道に接続しなければなりません。また、併せて台所やふろなどの生活排水の設備も、公共下水道に接続する必要があります。

## 海老名むかしはなし

### 第466話 郷土の里うた・里ことばなど(十)

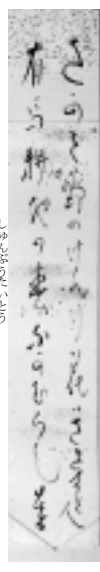
### 海老名を詠んだ短歌

麦畑相模の寺の跡どころ  
荒れしがままにたんぼの咲く 前田 夕暮  
夕暮先生は明治十六年生まれで、本県が生んだ歌人。本名・洋造、大根(現秦野市内)出身、昭和二十六年四月この世を去られた。歌誌「詩歌」を主宰し、多くの門人を育成された。

この歌は大正二、三年ごろ、愛弟子である国分の飯田莫哀(本名・昇)を訪れたときの作。「相模の寺」とは莫哀の屋敷続きにあった相模国分寺のことで、そのころ国分寺跡が、荒れるがままになっていた有様を詠んだものである。

なお氏には、杉久保の小沢彰家に杖を引いた折の次の二首がある。

相模野や有馬耕地の春草の  
みどり畑れる日となりけり  
さがみ野のげんげの花の咲きすぎて  
有馬耕地の春ふかむらし



これは、有馬耕地の春風飄蕩たる有様と、れんげ草の咲き満ちた風景を活写したものであろう。

生理めの咎のあわれを語りつく  
ふるさとの丘の尼の泣水 大貫 迪子

大貫氏は明治四十二年一月一日柏ヶ谷に生まれ、大正十五年三月女子美術日本画科を卒業。歌は歌誌「香蘭」主宰・野村次郎師に就いて学ばれた。縁づかれていたが、歌人としては旧姓をもって通された。

掲歌は氏の第三歌集「余光」より抽出したもの。県の昔話五十選に選定されている「尼の泣水」が主題。人の胸を打つ尼の哀れを、いつまでも語り継がれるであろうとするこの歌に、誰しも共感を覚えるであろう。また、次の作もある。

欣求をば希ひて人らの齋ながし  
水堂観音国宝の像  
「欣求」とは、よろこびを求めること。水堂の千手観音に、人々は子々孫々に至るまで幸せを願ってやまない。その功德は測り知れないものがあるであろう、という意か。氏は平成六年七月、八十六歳の高齡をもって天国へ旅立たれている。

秋雨煙る相模横山九里の土手  
木立のなかの千手観音の寺 赤井 仁夫  
そのかみのいらは古りて山門の 同 人

赤井氏は明治四十三年四月二十七日大谷に生まれ、元海老名町議会議員、町文化協会副会長、昭和二十三年には新嘗祭献穀田の奉仕者として昭和天皇に拝謁した篤農家である。歌は昭和十年十一月前記の「香蘭」に寄り研さん、また、同誌の相模支社を設立した。

掲歌は、氏の歌集「つげの花」より収録したもの。前